

氏名	郷 原 真 清
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 861 号
学位授与の日付	昭和52年 6 月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	乳癌の <b>Prolactin value</b> に関する研究 第 1 編 <b>DMBA 誘発乳癌ラットにおける Prolactin value</b> について 第 2 編 <b>人乳癌の Prolactin value</b> について
論文審査委員	教授 関 場 香 教授 寺 本 滋 教授 大 藤 眞

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

#### 第 1 編 DMBA 誘発乳癌ラットにおける Prolactin value について

DMBA 誘発乳癌ラットの血中 prolactin 値は腫瘍摘除前後で差はなく、両側卵巣摘除後には著明に下降がみられ、腫瘍は縮少した。しかし両側卵巣・副腎摘除後に hydrocortisone を投与すると腫瘍は縮小するにもかかわらず血中 prolactin 値は著明に上昇した。また<sup>125</sup>I Rat Prolactin の腹腔内投与において無処置ラットと DMBA 誘発乳癌ラットの間で臓器別分布に差はなかった。

#### 第 2 編 人乳癌の Prolactin value について

正常婦人、乳腺症患者、根治手術を行いえた乳癌患者および再発乳癌で外科的ホルモン療法を行った患者の血中 prolactin 値はいずれも正常範囲内であった。正常婦人、乳腺症患者では閉経前より閉経後で血中 prolactin は高いが、乳癌患者では閉経前の方が閉経後より高かった。LH-RH 投与にて正常婦人は閉経前、後共に上昇がみられた。閉経前乳癌患者では正常婦人と同様の上昇があったが、閉経後乳癌患者では外科的ホルモン療法を行った患者と同様、一定の傾向はなかった。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は乳癌と関係があると思われるプロラクチンの動態について基礎的、臨床的に検討し、乳癌患者の血中プロラクチン値より乳癌との関係を明らかにしたものであり価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。